

令和2年度 第1回 二宮町環境審議会会議録

日 時：令和2年11月16日（月） 午前9時30分～午前11時30分
場 所：二宮町町民センター 3階3Aクラブ室
出席者：室田会長 / 品川副会長 / 内田委員 / 渡辺委員 / 片岡委員 /
井上委員 / 土谷委員 / 古正委員
事務局：椎野都市部長 / 安藤生活環境課長 / 山下環境政策班長 / 羽鳥主事

1. 開会

2. 町長あいさつ

村田町長：前期に引き続きご継続いただけた委員の皆さま、また、今期より新たに委員をお引き受けいただいた方、改めまして、町の環境行政へご理解とご協力を賜り、感謝申し上げますとともに、2年の任期中、ご指導たまわりますようお願い申し上げます。

さて、今年は新型コロナウイルスから始まり、この11月になってもその猛威は収まらず、未だ先行きの見えないところですが、行政においては、コロナ対策のみならず、各事業が停滞することなく、新たな事業展開についても模索しながら、進めているところです。

例えばこの環境分野でいいますと、コロナ禍によって主軸となる啓発イベントが相次いで中止となっていますが、町ホームページにおける環境分野のページのリニューアルをはじめ、広報紙やSNSをより積極的に活用するなど、試行錯誤しながら啓発事業を進めているところです。

ご存じのとおり、世界共通の開発目標であるSDGs、また、パリ協定に基づく温室効果ガスの削減など、環境施策の推進は地球規模で動いています。

先日、菅総理大臣の所信表明にも「2050年に温室効果ガス排出量の実質ゼロ」があるなど、温室効果ガス削減の取組は、ますます拍車がかかっていると思いますので、町といたしましては、そうした国や県の動きを注視するとともに、この自然豊かな二宮の環境保全、あるいは、未来を担う若い世代の育成などにも力を注いでまいりたいと考えておりますので、今後も、引き続き、環境行政の推進にお力添えくださいますようお願いいたします。

3. 委員紹介

4. 審議会規則等

5. 会長、副会長の選出

会 長：会長を務めさせていただくこととなりました東海大学教養学部の室田と申します。専門は、植物生理学の研究をしております。これから2年間よろしく願いいたします。

6. 議題

(1) 二宮町第2次環境基本計画後期実施計画(令和元年度)の進捗状況について(案)

『資料1：二宮町第2次環境基本計画後期実施計画(令和元年度)の進捗状況について(案)』

『資料2：二宮町第2次環境基本計画後期実施計画(令和元年度進捗状況一覧)』

『参考1：令和元年度の進捗状況等に対する委員意見一覧』

について事務局より説明

【審議結果】

- ・資料『参考1：令和元年度の進捗状況等に対する委員意見一覧』でとりまとめた意見について、審議会意見とする。
- ・『資料2』の「評価」欄の標記の仕方について、「達成状況評価」欄や「事業内容評価」欄は結果が示されているだけで、どうしてこのような数値になったのかが分かりにくいことから、評価の経過がわかるよう標記の仕方を工夫して公表する。
- ・国や県でも「低炭素」から「脱炭素」という言葉を使用してきている中で、二宮町においても、次期計画の中で、言葉の表現や施策についても盛り込んでいく方向で検討していく。
- ・『資料1』6ページの「マイエコ10宣言」の注釈を「神奈川県が実施している取り組みです。」に簡潔に修正する。

【質問・意見等】

委員：『資料2』の「評価」欄の標記の仕方についての意見です。

例えば、3ページ No.1の「1-1-①：公園等維持管理運営事業」の「評価」欄において、「達成状況評価割合:75%」、「事業内容評価割合:25%」というのは意味が分かるが、その下の「達成状況評価:75%」、「事業内評価:25%」については、結果としての数値が示されているだけで、どうしてこのような数値になったのかが分かりにくいので、経過を分かるような標記にした方が良いのではないかと。

事務局：公表までに、修正いたします。

委員：基本目標3の「低炭素社会の形成」で、第2次環境基本計画自体が策定されてから大分経過していることもあり、国や県では「低炭素」ではなく「脱炭素」という言葉を使うようになってきているが、町では現行の計画期間の令和4年度まで使用していくのか。

事務局：先日の菅総理大臣の所信表明で、「2050年に温室効果ガス排出量の実質ゼロ」とあったように、今後、国や県の動向を見ながら、令和5年度からの第3次二宮町環境基本計画の改訂に向けては、「脱炭素」を意識しながら、審議会で検討していきたいと考えております。

今年度の第2回審議会で、次期計画策定や今後のスケジュールについて調整させていただきたいと思いますので、現時点では「低炭素」という表現で進めさせていただきたいと思います。

委員：『資料1』6ページの「マイエコ10宣言」の説明が、わかりにくいと思う。

また、「90の行動メニュー」とあるが、90の行動メニューのうち、37が一般向けで、53が企業、団体向けとなっており、県としても一般向けに実施していることもあり、90の行動メニューと表現することに違和感がある。

事務局：こちらの資料を公表するにあたり、町民の方が目にした時に、「マイエコ10宣言とは何だろう。」ということにならないよう注釈を入れたのですが、わかりにくいということであれば、「神奈川県が実施している取り組みです。」とだけ表現した方が良いでしょうか。

委員：その方が良いと思う。

事務局：「マイエコ10宣言」の注釈については、「神奈川県が実施している取組みです。」に修正させていただきます。

会長：No30の「2-3-① 二宮町一般廃棄物処理基本計画の推進」事業が「D」評価となっているが、「1人1日あたりのごみ総排出量の目標値816gに対して実績値834g」、「資源化率の目標値34.5%に対して34.0%」、「埋立量の目標値81tに対して実績値84t」といずれも誤差の範囲ではないかと思う。この数値は他市町村と比較してどのような状況かわかりますか。

事務局：二宮町のごみ総量の約80%を1市2町(平塚市、大磯町、二宮町)で処理をしており、その中でごみ処理の計画を策定しています。ちょうど次期計画を作成しているところですが、二宮町は、他市町と比較して、一人当たりのごみ量や資源化は進んでいます。

この計画値は、人口減や様々な施策を展開する中で、減量可能と思われる目標を設定しておりますので、達成できなかったということは、啓発が行き届いていなかったという結果と捉えています。

そこで、今後は、広報紙などでの周知のみにとどまらず、もう少し踏み込んだ形、わかりやすい内容で周知していくなど、啓発方法についても見直しをしなければならぬと考えています。

会長：「D」ということで厳しい評価であるとわかったが、目標値まであとどれくらいを示すため、「資料2」の「課題」、「対応」欄に実数を記載してはどうか。また、町民の方にもあとどれくらい頑張れば良いのかが見えると良いと思う。

事務局：町の広報紙において、四半期に一度、計画値に対してあとどれくらいで達成できるということも掲載していますが、そういった事を積み重ねるなど、皆さんの共感を得られるような啓発活動を進めていきたいと考えております。

会長：評価割合については、後期実施計画策定時に決めていることなので、設定割合を変えることはできないと思うが、どれだけ頑張っているのかを示すため、目標値に対して、実績値がどれくらいだったのかを記載することで見えるようにしていただきたい。

事務局：承知いたしました。

町では、毎年、可燃ごみの組成分析を実施しており、可燃ごみに占める水分割合というのは、大体50%前後で推移しています。

これまでは、減量化のため、「絞る」ということに重点を置いてやってきましたが、そもそも生ごみは、「調理時に濡らさない。」、「不要な生ごみを出さない。」、「計画的な買い物をする。」などのちょっとしたことでも削減できるということを前面に出しながら啓発を進めていきたいと考えております。

委員：せっかく頑張ったのに、「D」評価にすることで町民のやる気が削がれてしまうかもしれないので、頑張りに対する評価というものも必要であると思う。

委員：町内に「ふたは」という量り売りのお店があるのをご存知ですか。そこでは、お客さんが持参した容器に購入した商品を入れてもらうシステムとなっています。他にも「My Mizu」というアプリがあって、給水スポットを携帯アプリで

検索でき、マイボトルを持って行くと、無料で水を入れることができます。事業者の登録が増えてきていて、少しずつ社会が変わってきている気がします。

現実を捉えつつも、ちょっとした取組みの積み重ねが実社会を創って行くのだと思います。計画の内容の話になるのですが、「低炭素社会の形成」で、啓発が非常に大事になると思いますが、電力の切り替えが盛んになってきています。石油などの化石燃料から再生可能エネルギーへ切り替える方が増えている中で、電力や電力会社の選択肢を提示することが、大事だと思います。「マイエコ10」宣言をした方には、次のステップとして、そういった選択肢を示すことで、宣言が有効なものになると思っています。町周辺で言えば湘南電力があるが、住民が地域で発電された電力を使用し、地域でそのお金が回ることが大事だと思います。

会長：電気料金は安いのですか。

委員：金額面だけ見ると少し割高ですが、環境負荷ということもコストに入れると安いと思います。原発などは国の補助金があるため、安く感じますが、仮に補助金がない状況で、本当の意味でのコストということで考えると、安いと思います。また、海岸線沿いの町では、台風時など被害が大きいです。地球温暖化による自然災害のような環境負荷も含めると安いと思います。二宮町から地球を想って、「自分事」として捉え、積極的に選択していくことが重要です。

私は、二宮町で、10年以上そのような生活を大事にしています。

会長：人が動くインセンティブとして、お金があげられますが、エコカーの助成など目に見える形で、出して行く一つの対策となるのではないかと思います。

委員：二宮町出身で国立環境研究所地球環境研究センターにいらっしゃる江守さんに指導していただくのも良いと思います。平塚市は、「平和都市宣言」をしていますが、二宮町では、「パワーシフトの町」を宣言してはどうでしょうか。

委員：平成29年に二宮町は、環境省が実施している「クールチョイス」宣言をしましたが、あまり町民に浸透していない気がする。どのようにしたら伝わるのかを考えた方が良いと思います。

会長：結局、環境教育にしても何にしても小さい頃から教育を行うことで、やがて教育を受けた人達が社会を形成していくことで少しずつ理想に近づいていくと思います。

事務局：「クールチョイス」を和訳すると、疑問に思うことはありますが、環境省では「賢い選択」という意味で使用しています。実際に賢い選択って、どんな事があるのかというと、節電対策やエコドライブなど身近にたくさんあります。「エコ10宣言」は、きっかけとしてはとても良い取り組みとして捉えています。

また、世界では、地球温暖化よりも気候変動の方が先行しているというような事も聞いたりしますし、最近では、街なかでSDGsのマークを見かけることはありますが、クールチョイスのマークは、あまり見かけないということもありますので、今後は、SDGsの気候変動と併せて、啓発を進めていきたいと考えています。

委員：学校では、SDGsやクールチョイスに対して、授業や日々の生活でどのように関わっていますか。

委員：教育は、改めて大事であると感じています。施策を推進するには、いかに学校

や教師を取り込むかが大事であると思います。

現状としては、体育や音楽など授業で教室を離れる際に、誰もいない教室の電気が付いることや、休み時間が終わってもトイレの電気が付いていることもあります。また、校舎内を見回っていると、機材の電源が ON のままになっていることもあつたりします。

こんな些細なことであっても、1人でもこういうことを気にする人間がいると変わっていくと思いますが、下校時に「教室の電気を消したか」とか「電源を消したか」について気にすることができる児童を育てていきたいと考えています。

キッチンの流しの生ごみについても同じことが言えますが、例えば、調理実習で教師がなるべく生ごみを出さない、濡らさないということ意識しながら、子ども達に教えられること、10年後、20年後を考えて子ども達を育てていくことが大事であると思います。

そのためには、子ども達に教える立場である教師が、率先して意識を持つことが大事であると思います。

町の広報紙などによる啓発も大事ですが、毎年、町の職員の方に来ていただいて実施している出前授業のさらなる充実を望んでいます。小学校生活6年間の間に1回だけ受けても、何も変わらないので、学校のカリキュラムを変えてでも、環境教育を組み込んで行く必要があると思います。子どもをターゲットにした教育が大事であると思います。

委員：エコライフチャレンジは、今年実施されたのですか。

委員：生活環境課の方も配りっぱなしで、大変申し訳ないとおっしゃっていましたが、任意ではなく、強制にしても良いと思っています。

良くできた子には、金色のシールを上げるだけでもとても励みになります。こういったことで、子ども達の行動に変化があれば良いと思います。

ちなみに、「クールチョイス」のロゴマークについては、校内のあちこちに掲示しています。

委員：先生を前にして、お話するのはおこがましいですが、二宮町の小中学校で、昨年度から学校運営協議会制度というものを取り入れまして、私も前地区長という立場で、二宮小学校の学校運営協議会に参加させていただいております。

その中で、3、4年生の授業で外から講師を招いて行える授業の枠があり、町の職員の方に来ていただいているようです。こういった場を活用しても、少しは現状が変わってくるのではないかと思います。

委員：話を少し戻してしまうのですが、環境教育は、人を変えるきっかけとなる一定のルールをつくるのが、大事であると思います。最初は、何でもないことも習慣づけていくことで、社会全体がそのルールの中で動いて行きます。事業となるとうとうとも啓発に目がいきがちですが、ルールやシステムづくりをすることも大事だと思っています。

会長：とても大切なご意見だと思います。このような審議会の場や会議など、検討する場があるということがとても重要であると思います。

事務局：町民に対して、行動制限を持たせることは、難しいと思いますが、徐々にそういった方向に持って行くことは大事だと思っています。

委員：オランダの空港内にある男子トイレの清掃に年間数億円の経費がかかっていた

が、男性用便器の中に小バエの絵を書いただけで清掃費が減ったという事例もあります。促すことで、みんなが一定のルールの中で行動し始めます。

事務局：自然とそうなる仕組みづくりが大事であると思います。皆さんがいろんな視点でご意見を持っていらっしゃるので、アイデアを出していただいて、啓発していくことは、町で担って行くことだと考えています。

事務局：どれほど地球温暖化というものが浸透しているのか読めないところではあります。町で宣言や計画を策定するとそれだけが一人歩きしてしまう傾向も伺えます。これまでも審議会の中で「まずは、周知」ということもありましたので、今年度に入り、HPについても作り変え、皆さんが見たくなるようなページ作成を心がけました。町のトップページの一番目立つところにアイコンを持ってきております。ますますスマートフォンというものが普及し、啓発手段としてとても重要になってくると思いますので、今後そういった活動を進めながら、計画や宣言といったものについては、国や県と足並みを揃えて、取り組んでいきたいと思えます。

事務局：行政側で感じているのは、特に環境に関しては、意識が非常に高い方と低い方のギャップが激しいことです。全体的な底上げをするためには、「身近なちょっとしたことから取り組んでみよう。」という気持ちを持ってもらうことが大事だと思います。最初からハードルをあげてしまうと、ついて来れない方もいて、絵に描いた餅となってしまいます。冒頭から担当も説明していますが、ちょっとしたことをきっかけに啓発をしていくことが重要であり、「小さいお子さんをターゲットにして、長い目で見るのが大事である。」と、先ほど室田先生もおっしゃっていましたが、保護者の意識も含めて変えていきながら、ある程度皆さんの意識が高まってきた段階で、国の施策や町の啓発が、次の段階で生きてくるのではないかと思います。モデル的なものがあると、皆さんにも目に見えて分かるため、取り組むきっかけとなるのではないかと考えています。

委員：見せ方が大事であると思います。意識の低い方達にも「自分事」として捉えてもらうために、「あなたたちが分別をしないから、余計にごみ処理費用がかかり、他にかかるべき予算が足りなくなる。」といった見せ方をしても良いのではないかと思います。今、私たちがしているマスクも同じで、始めは自分には関係ないと思っていた人たちも、コロナの感染リスクを避けるため、今ではほぼすべての人がマスクするようになりました。

事務局：4月以降に町の広報紙でもごみの関係の特集ページを掲載していますが、例えば、紙の捨て方についてですが、紙は汚れていなければ資源物として売ることができており、昨年度実績で、約1千万円の収入がありました。需要が下がってきている状況もありますが、分別すればお金になり、分別しなければお金も入って来ない上、焼却するための経費が掛かってしまいます。

委員：地球温暖化で農業への影響は何かありますか。

委員：農地に新しい草が生えたり、農作物に新種の病害虫が発生したりしていますが、最近では、気温が暖かく、農作物の生育には良いので、ありがたいこともあります。

会長：気温が暖かくなることで、農作物の生育が良くなるということですが、収益も上がっているのですか。

委員：収益については、人によると思います。

農業委員会から皆さんのお知恵をお借りできればと思いますが、現在、農業委員会では「人・農地プラン」という5年後、10年後の町の農業を考える計画を作成しております。全国的に同じような現状ですが、後継者や担い手不足で今以上に荒廃農地化が進み、やり切れない農地の貸し出し希望リストがまとまりますので、市民農園などの需要も高まっている中、環境基本計画の事業にも「ふれあい農園事業」も位置づけられていますので、農地の活用について、ご一緒に考えていただけたらと思います。

(2) 二宮町第2次環境基本計画後期実施計画(令和2年度)の事業計画について(案)

『資料2：二宮町第2次環境基本計画後期実施計画(令和元年度進捗状況一覧)』

『参考2：令和2年度の事業計画に対する委員意見一覧』

について事務局より説明

【審議結果】

- ・資料『参考2：令和2年度以降の事業計画に対する委員意見一覧』でとりまとめた意見について、審議会意見とする。
- ・資料『参考2』No14、15の意見については、「3-1(2)-② ムダな電力消費等の節約啓発」事業に関する意見として統合する。
- ・新型コロナウイルスの関係で、「-」評価非該当とした事業については、備考欄などに本来評価を記載する。

【質問・意見】

会長：新型コロナウイルスの関係で評価非該当とすることはやむを得ないが、備考欄を活用するなどして、本来、評価した場合の標記がしてあると良いかと思う。

事務局：No2「1-2-① 里山再生育成事業」について、令和元年度評価は、「-」（評価非該当）ですが、資料2の令和元年度進捗状況一覧では、本来評価の「C」と記載しています。そのあたりも上手く見せながら進めていきたいと思えます。

会長：そのようにしていただけると、実際の進捗状況が見えて良いと思う。

委員：小学校に通う4年生の息子がいて、給食が残ってしまうことが多いと聞きます。息子と一緒に、どうしたら残らないようにできるかということを考えているのですが、例えば、「赤、黄、青と色分けしたランチヨンマットを敷いて、いっぱい食べたい人は赤。普通盛りが良い人は黄。少なめが良い人は、青。とすることで、配膳する量を調整できるといいね。先生に提案してみたら。」という話をしました。その後どうなったのかについてはわかりませんが、システムを作ることで、子ども達に浸透していくのではないかと思います。

会長：現在は、パンなどを全部完食できない子は食べ切らなくても良いのですか。

委員：無理に完食をさせないようにしています。

会長：配る前に、完食出来ない子は、切り分けるというようことはしないのですか。

委員：パンを切り分けるということまでは実施しておりませんが、本校ですと、始めは均等に配り、その後で減らしたい子は減らし、さらに食べたい子はお代わりを

するという形でやっております。

委員：私の住んでいる地域では、給食の献立を掲示しているスーパーがあります。買い物に来た親が、それを見てメニューを決められると、食品ロスを減らすことに繋がるかも知れません。

事務局：お子さんのいない世帯でも、夕食のメニューの参考になると思います。

委員：平塚市内のしまむらストアに、掲示してあるのを見ました。

委員：鎌倉市で LINE と契約をしており、配信されたカレンダーの該当日をクリックするとその日の給食の献立が表示されるアプリがあります。

委員：HP は、まず見ないですね。県の地球温暖化防止活動推進センターでも HP がありますが、そもそも見てもらえないことにはどうしようもないです。まずは、情報を見てもらうことが大事です。

事務局：HP が見にくい、目的ページにたどり着けないというご意見をいただいているので、そこをまず改善しました。また、フェイスブックを積極的に活用して、HP の見てもらいたいページに飛ばす仕組みや広報紙にも必ず QR コードを付けて、関連ページに飛ばすようにして、興味がある方には見てもらうというように形にしております。

会長：町のフェイスブックがあるのですか。登録すれば見られるのですか。

事務局：そうです。

委員：フェイスブックより LINE の方が、使い易いですね。

委員：人の行動心理によると意識の低い方にあわせると、理想からは遠くなってしまいます。「2割・6割・2割」と思っているのですが、全ての人をターゲットにすると、行動が遅れてしまうので、まずは2割の人を動かして、浸透させていき、次に6割の人に働きかけ、残りの2割の人は放置状態でも良いのではないかと思います。大半を引き込んだ時点で、社会の仕組み自体に変化が起き、自然とみんなが同じ方向へ動く仕組みが出来てくると思います。

会長：生物学の原理ですね、蟻の社会が、正にそのようなシステムになっています。

事務局：当たり前出来るということが大事で、7、8割の人が賛同出来れば、その方向で進められると思います。

委員：地球温暖化が提唱された当初は、我慢を強いる形で、何かを我慢しなければいけない、何かをしなければいけないというものであった。SDGs のマークはおしゃれですね。

委員：我慢するものではなく、良い方に転換していくという考えかたで良いと思います。

委員：良くも悪くものんびりした町なので、例えば、環境が悪くなっていて、何かしなくてははいけないという意識について薄いと思います。

会長：町民からの意見を集約できるようなシステムがあると良いですね。

委員：川勾神社の周辺で間伐作業をしている方がいるのですが、昔は薪や炭を作るために間伐していたが、現在は、保全が目的となっています。一見、緑豊かに見える風景も、林や竹林の中は荒廃していて、風が抜けなかつたりしている。今年、ナラ枯れの被害が多く見られていて、枯死する木が増えるとそれが原因で、土砂災害などの被害も懸念されています。里山がまさにそうで、人の手を入れていかないといけない。

委員：気づいた時には、遅いということですよ。

副会長：昔、瀬戸内海の大三島というところに行ったのですが、神社があって神主さんを始め、島の人たちが毎朝地域の清掃をしていてとてもきれいに保たれていました。ふるさとに愛着を持つということはとても大事なことであったと感じました。美しい町にするということが、大事だと思います。

会長：郷土愛が大事だということですね。

(3) その他

事務局：本日、ご審議いただいた内容については、事務局の方で文言等の修正を行い、室田会長と調整させていただいた後、正式に公表させていただきますので、ご了承いただければと思います。

また、次回の審議会の開催予定につきましては、例年2月に実施しておりますが、議題については、「令和元年度進捗状況等に対する二宮町環境審議会の意見への町の対応」及び「令和3年度以降の二宮町環境審議会スケジュール(案)」について審議させていただく予定です。時期が近づきましたら、改めて日程調整をさせていただきます。

7. 閉会

事務局：本日は長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。
これをもちまして、本日の環境審議会を閉会とさせていただきます。
ありがとうございました。